

1 安芸地域

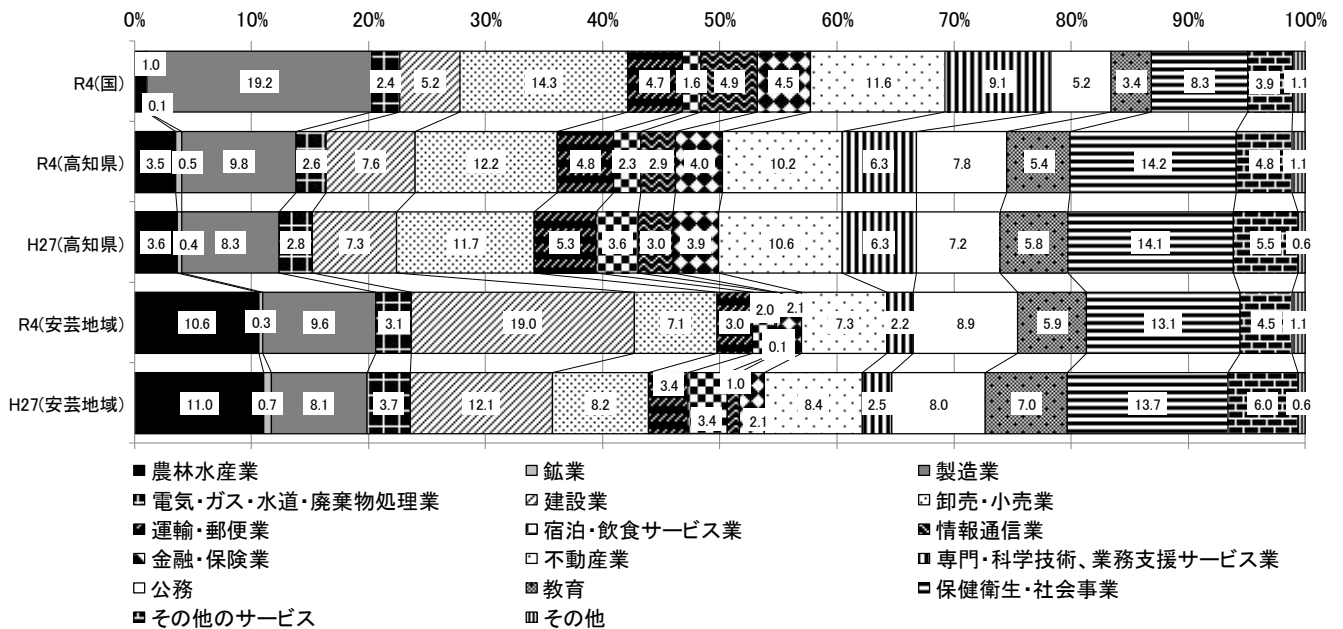
(1) 地域の産業を取り巻く状況

安芸地域は、高知県の東部に位置し、海・山・川の恵まれた自然と温暖な気候を生かし、古くから第一次産業を中心に営んできましたが、年々人口が減少し、昭和30年代半ばには10万人余であった当地域の人口は、令和2年の国勢調査では43,666人となり、前回調査（平成27年）と比較して9.7%減少するという状況になっています。

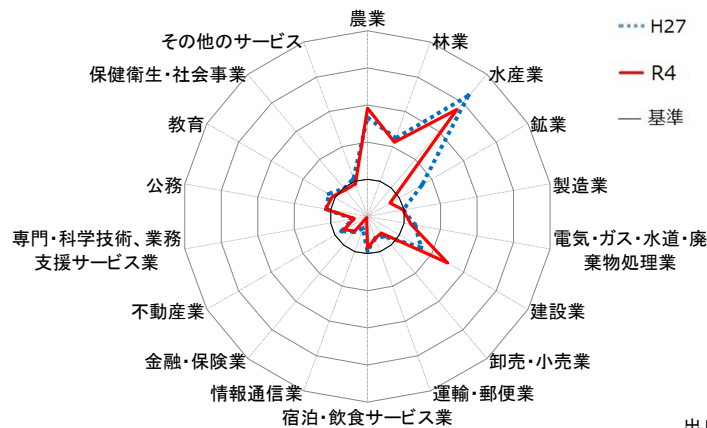
安芸地域の令和4年度の市町村内総生産（名目）は、157,028百万円であり、平成27年度と比較すると約4.4%増加しています。なお、令和4年度の県内総生産（名目）に占める割合は約6.5%です。

産業別構成比（令和4年度）は、第一次産業である農林水産業の割合が10.6%を占め、県全体と比較して高いことが特色に挙げられます。

県内（国内）総生産（名目）の産業別構成比



産業構造の特徴



高知県を比較対象 とした場合	安芸地域		高知県を比較対象 とした場合	安芸地域	
特化係数※	H27	R4	特化係数※	H27	R4
農業	2.66	2.91	宿泊・飲食	0.93	0.85
林業	2.25	2.13	情報通信業	0.34	0.04
水産業	4.24	3.76	金融・保険業	0.54	0.52
鉱業	1.69	0.71	不動産業	0.79	0.72
製造業	0.98	0.98	専門	0.39	0.35
電・ガ・水・廃	1.32	1.20	公務	1.12	1.15
建設業	1.67	2.51	教育	1.20	1.09
卸売・小売業	0.70	0.58	保健衛生	0.97	0.93
運輸・郵便業	0.64	0.62	その他サービス	1.09	0.94

※特化係数：安芸地域の経済活動ごとの構成比を高知県と比較し、高知県から見た相対的な経済活動構成比の大きさを表す指標。

出典：市町村経済統計（高知県）、国民経済計算（内閣府）

農業分野

平坦地域では冬春ナスを中心とするハウス園芸地帯として、中山間地域ではユズの産地として、地域の特性に応じた多様な農業が展開されており、それぞれ日本一の生産量を誇っています。

施設野菜については、全国に先駆けた天敵昆虫の利用などに取り組み、消費地から安全・安心な野菜の産地として高い評価を受けています。また、収量・品質の向上を目指した環境制御技術の普及拡大に取り組んでいます。

一方、ユズについては、平成24年度に始まった日本初のヨーロッパへの青果実の輸出が、毎年継続して行われており、海外での知名度が徐々に高まっています。さらに、北川村では大規模な園地整備が進められ、馬路村では村外の労働力を確保するなど、将来に向けてユズ産地を維持するための仕組みづくりが進められています。

また、農商工連携や6次産業化などによる新商品の開発を進めています。

林業分野

森の工場の拡大や路網整備等による効率的な原木生産をはじめ、森林経営管理制度を活用した意欲と能力のある経営体による林地の集約化などを進めています。

木材加工については、住宅着工戸数の減少に伴う売上の減少、人件費の上昇、電気や燃料、資材等のコスト高騰による利益率の低下が続く中、生産性の向上のため、加工機械や木材乾燥機の整備、経営改善に向けた事業戦略づくりなどを進めています。

水産業分野

資源量や海洋環境の変化に伴う漁獲量の減少、魚価の低迷、漁業就業者の高齢化など、取り巻く環境は年々厳しさを増しています。そのため、漁獲物の販売促進や高鮮度処理による魚価の向上、移住促進策と連携した就業希望者の掘り起こしや研修制度の充実等による担い手の確保・育成の取り組みを進めています。

商工業分野

地域資源である海洋深層水やユズ等を活用した商品の製造に加え、道の駅や直販所などにおける地場産品の販路拡大を進めています。商店街では、地域の活性化や商業機能の維持・発展などを目指す商店街等振興計画に基づく取り組みや、にぎわいづくりのために、地域の若者や学生が中心となって、イベントの企画・実施を行うなど、活性化に向けた取り組みが進んでいます。

観光分野

東部地域では、歴史や食を生かした観光振興の取り組みに加え、県の観光キャンペーン等を契機とした自然・体験型観光資源の磨き上げや、ストーリー性を生かした旅行商品開発、地元住民によるガイドの育成、高知県東部観光協議会を中心とした教育旅行の誘致、マーケティングの強化等に取り組んでいます。

また、令和4年度からは高知県東部地域と徳島県南部地域の市町村等で構成する四国南東部広域観光連携協議会が発足し、県境を越えた一体的な誘客促進にも取り組んでいます。

(2) 地域アクションプランの概要

当地域では、各市町村のまち・ひと・しごと創生総合戦略の取り組みと歩調を合わせて、第一次産業の振興に向けた生産・加工体制等の充実・強化や、販路拡大の取り組みを継続するとともに、地域の一次産品等を活用した加工品づくりや、道の駅・直販所における機能の強化にも引き続き取り組みます。

農業分野

地域ぐるみで取り組んでいる有機栽培によるユズや、地域の特産品であるポンカンなどを活用した新たな加工品開発や認知度向上に取り組み、新規顧客層の開拓や消費の拡大に取り組みます。

林業分野

森の恵みである木材や木製品について、経営コンサルタントの活用などにより関西圏を中心とした販売強化を進めていきます。

水産業分野

漁業者による地元水産物や近海マグロ、低利用魚を活用した加工品製造・販売に取り組み、高付加価値化、漁業者の所得向上を図ります。また、加工事業者による高度な衛生管理体制下での地元水産物の加工品製造・販売についても引き続き取り組みます。

商工業分野

道の駅や農産物直販所などにおいて、農水産物や地域資源を生かした加工品の品揃えの充実及び販路の拡大、情報発信機能の強化など、観光分野とも密接に連携した取り組みを進めていくほか、地域の中心市街地に賑わいと活力を呼び戻すための取り組みを進めていきます。

観光分野

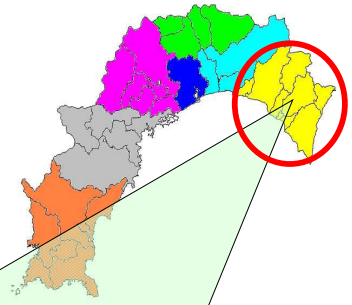
(一社)高知県東部観光協議会は、市町村や関係団体、事業者等と連携して、教育旅行等の受入基盤づくりを進めるとともに、周遊促進商品やご当地グルメを組み込んだツアー商品の造成等、地域資源を生かした観光商品化に取り組んでいます。

また、市町村においては、国や県の事業を活用した拠点施設等の磨き上げを通じて、東部地域の魅力づくりを進めています。

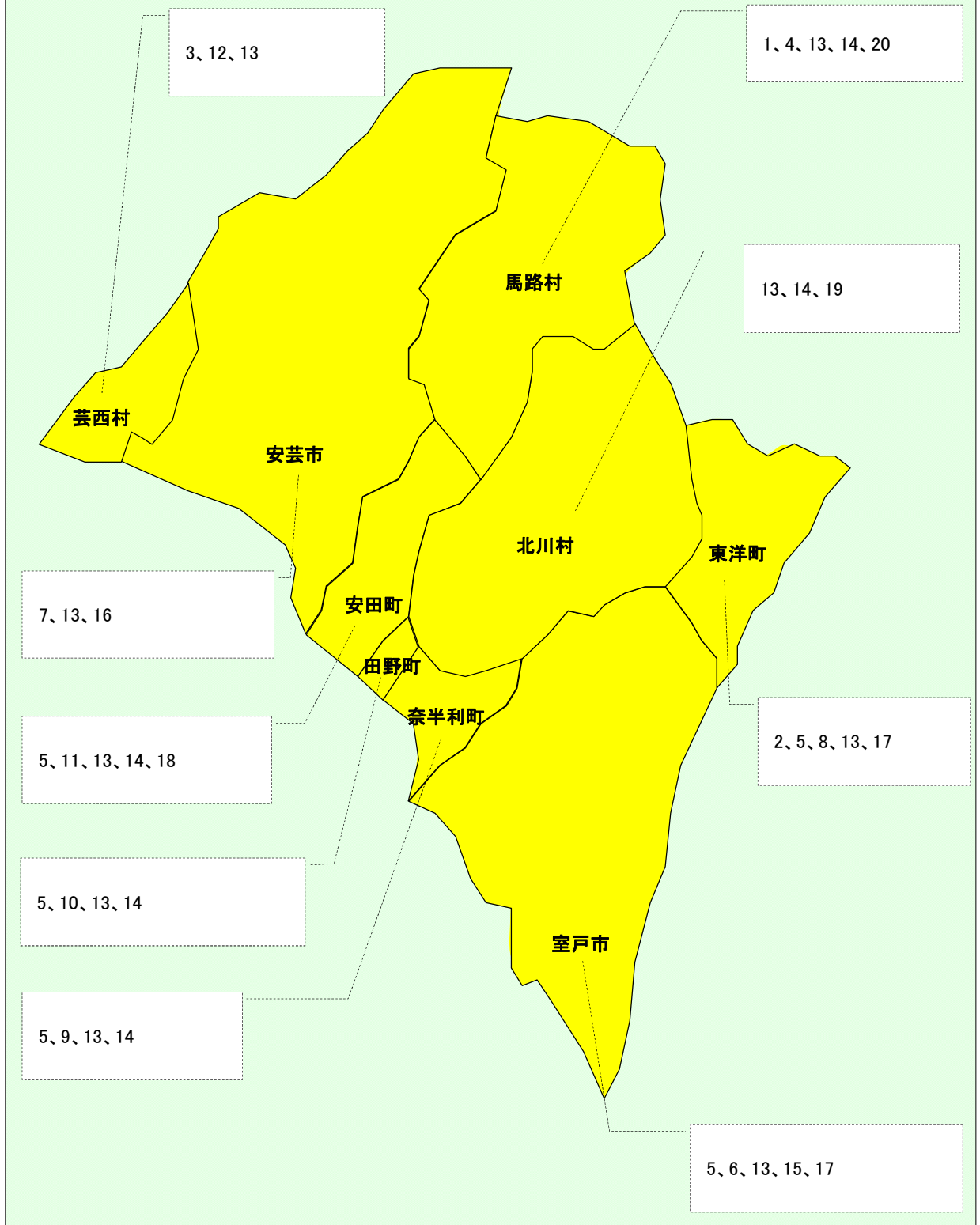
令和8年度は、宿泊施設を核とした周遊促進や、高知龍馬空港の国際線ターミナルのオープンに連動したコンテンツ開発等のインバウンド対応の強化に取り組んでいきます。

(3) 具体的な取り組み

分野	No.	項目	室戸市	安芸市	東洋町	奈半利町	田野町	安田町	北川村	馬路村	芸西村
農	1	「村を売り出す」有機栽培ゆず製品の販路拡大による地域の活性化								●	
	2	東洋町のポンカン加工品の販路拡大と後継者確保による地域振興			●						
	3	芸西村の白玉糖を活用した地域活性化									●
林	4	馬路の林業加工品の販売促進								●	
水	5	芸東地域の水産物の付加価値向上と販路拡大	●		●	●	●	●			
商工	6	道の駅キラメッセ室戸を核とした地産地消・外商の拡大	●								
	7	安芸市中心市街地の活性化		●							
	8	道の駅東洋町を拠点とした地域振興			●						
	9	なはりの郷を核とした特産品の販売促進と体験型観光の推進				●					
	10	道の駅「田野駅屋」の機能強化に向けた取り組み					●				
	11	やすだ資源を生かした新商品開発による地産外商の推進						●			
	12	地場産品直販所「かつぱ市」を核とした地域活性化									●
観光	13	安芸地域の観光振興の推進	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	14	日本遺産を活用した中芸地域の活性化				●	●	●	●	●	
	15	室戸市の観光資源を生かした交流人口の拡大・地域振興	●								
	16	安芸市のユズ、ナス等の地域食材や観光資源を活用した交流・関係人口の拡大		●							
	17	東洋町における体験型・滞在型観光の推進	●		●						
	18	安田川アユおどる清流キャンプ場における交流人口の拡大による地域の活性化						●			
	19	北川村観光3施設を核とした交流人口の拡大							●		
	20	自然や歴史・文化を活用した山と暮らす馬路村の観光振興								●	



【安芸地域】



安芸地域アクションプラン

分野		農業
AP 名 (実施地域)	No.1 「村を売り出す」有機栽培ゆず製品の販路拡大による地域の活性化 (馬路村)	
実施主体	◎馬路村農業協同組合、馬路村	
AP への位置づけ	H21.4 月	
事業概要	全作物の耕地面積に占める有機農業面積の割合が全国 1 位の 81％にのぼる馬路村の有機栽培で育てたゆずを生かした新商品の開発や国内外への販路の拡大により、商品とともに村全体を売り出すことで馬路村ブランドを更に強化し、官民一体となって地域の活性化を図る。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
有機ゆずを生かした商品開発及び人材確保	・ゆず茶製造ラインの整備（H22）→産振補助金の活用 ・アルミ缶対応ドリンク充填ラインの整備(H26)→産振補助金の活用 ・ペットボトル充填ライン及び化粧品充填機械の整備、並びに製品製造室の改修（H29）→産振補助金の活用 ・ゆずゼリー充填機械の整備（R2～3） →新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金の活用	【成果】 ・新商品の開発 R3：5 件 R4：5 件 R5：4 件 R6：3 件 R7：1 件 ・シンガポールへの輸出の開始（R5） ・ハラル認証の取得（R5）4 件
	・リスティング広告の試行（H30）→産振補助金の活用 ・EC サイトの改修等（R2～3）→新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金の活用 ・シンガポール FHA 展示会への参加（R4）プロモーション活動（R5） ・ゆずはじまる祭り（H18～R 元、R5～） ・第 62 回農林水産祭の多角化経営部門において馬路村農業協同組合が天皇杯を受賞（R5） ・有機ゆずの輸出向けラベル、パンフレットの作成（R5） ・オーガニックビレッジ宣言（R6） ・合同会社 DMM との包括連携協定式（東京）と併せて馬路村 PR イベント「ゆず香る村めしマルシェ」を実施（R6） ・どっぶり馬路村 Pop up Festa の開催（R7）	【課題】 ・スーパーでの加工品売り上げの低調 ・既存顧客層の高齢化 ・生産者及び農協職員の不足 ・有機ゆずの認知度向上 ・海外販路の拡大

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)通販売上高※	8.56 億円 (R4)	7.17 億円	7.72 億円		R9 9 億円
(2)輸出入出荷額※	1,000 万円 (R4)	3,355 万円	3,135 万円		1 億円

※会計年度：1 月～12 月

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
顧客層拡大に向けた新商品の開発及び人材確保					
■馬路村農業協同組合					
・スイーツ部門の設備整備・商品開発					
・有機栽培を生かした新商品の開発					
・既存商品のブラッシュアップ					
・村内観光客への特別商品の開発					
■馬路村					
・各種補助制度の活用					
・県内外での若い世代向けのイベント開催					
・ふるさとワーキングホリデーや特定地域づくり事業による人材の確保					
□県(地域本部等)					
・各種支援制度の活用を提案					
認知度の向上と販路拡大					
■馬路村農業協同組合					
・有機栽培を前面に出した広報					
・第 62 回農林水産祭天皇杯受賞を生かした情報発信					
・東南アジアへの販路拡大					
・海外展示会・商談会への参加					
・海外の食品表示への対応					
・SNS を活用した情報発信					
■馬路村					
・県内外でのイベントの開催					
・ふるさと納税を用いた販路拡大					
・オーガニックビレッジ宣言を生かした情報発信					
・馬路村ファンの獲得に向けた情報発信					
□県(地域本部等)					
・各種補助制度の情報提供					
・海外催事・商談会等の紹介と情報提供					

安芸地域アクションプラン

分野		農業
AP 名 (実施地域)	No.2 東洋町のポンカン加工品の販路拡大と後継者確保による地域振興 (東洋町)	
実施主体	◎(株)フクチャン FARM、◎東洋町、ポンカン生産者、甲浦の果樹仲間	
AP への位置づけ	H24.4月	
事業概要	東洋町の特産品であるポンカンを活用した加工品の販路拡大を進めるとともに、移住・定住の促進による後継者の確保・育成に取り組むことにより、地域振興を図る。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
ポンカン加工品の販路拡大	・ポンカンを活用した商品の開発（H22～） ・関西方面での営業活動（H24～） ・ポンカン栽培、ポンカンを使った新商品開発 →こうち産業振興基金（建設業経営革新事業費補助金）の活用 ・イベント出店、商談会参加 ・県内量販店でのポンカン取り扱い開始（R2～） ・ポンカン振興対策協議会の設立（R2） ・ふるさとワーキングホリデーやJTB アグリワーケーション等の活用 ・高知6次産業化サポーターセンターよりプランナー派遣（R元～3） ・とさのさとでのポンカン販売会の実施（R5～） ・ひろめ市場でのポンカン販売会の実施（R6～）	【成果】 ・ポンカン振興対策協議会の設立による各関係機関の連携に向けた検討 ・ポンカン商品の東洋町のお土産としての定着 商品開発数 H28～R3：16商品 【課題】 ・担い手確保・育成によるポンカン生産の維持 ・東洋町のポンカンの認知度の向上 ・生産者・行政・JA等の関係機関による課題の共有と課題解決に向けての連携 ・地域おこし協力隊や新規就農者の確保と、受入体制の整備
後継者の確保・育成	・ポンカン振興対策協議会の設立（R2） ・ふるさとワーキングホリデーやJTB アグリワーケーション等の活用 ・地域おこし協力隊の募集（R3～） ・移住情報サイトへの情報掲載（R4） ・移住フェア・農業人フェアなどへの参加 ・地域おこし協力隊の採用（R6）	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
売上高※	845万円 (R4)	1,095万円	793万円		R9 1,070万円

※会計年度：1月～12月

第5期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
販売促進活動 ■(株)フクチャン FARM、甲浦の果樹仲間 ・既存商品の磨き上げ ・商談会等への参加 ■東洋町 ・イベント等でのPR活動 ・道の駅東洋町との連携 □県(地域本部等) ・産振アドバイザー等の活用提案 ・各種支援制度に関する情報提供 ・商談会等の情報提供				商談会等への参加	
移住・定住の促進による後継者の確保・育成及び新規就農者支援 ■東洋町 ・移住フェア等への参加 ・特定地域づくり事業ハツガン協同組合との連携 ・地域おこし協力隊の受入体制の整備 ・ふるさとワーキングホリデー等の活用 ・指導者の育成及び増員 ・就農希望者に対する園地承継の支援 □県(地域本部、安芸農振センター等) ・移住等に関する情報提供、関係機関への橋渡し ・栽培技術等に関する情報提供、関係機関への橋渡し ・園地承継の支援				PR活動によるポンカンの認知度向上	
ポンカン振興対策協議会による産地維持 ■ポンカン生産者 ・ポンカン振興対策協議会への参画 ■東洋町 ・生産者・行政・JA等関係機関で話し合える体制づくり ・ポンカン振興対策協議会への参画 □県(地域本部、安芸農振センター等) ・生産者・行政・JA等関係機関で話し合える体制づくり ・ポンカン振興対策協議会への参画			移住フェア等への参加		
			受入体制の整備		
					ポンカン振興対策協議会の開催

安芸地域アクションプラン

安芸地域アクションプラン		分野	農業
AP 名 (実施地域)	No.3 芸西村の白玉糖を活用した地域活性化 (芸西村)		
実施主体	◎ 芸西村伝承館製糖組合、◎ 集落活動センターがいせい、芸西村、生産者グループ		
AP への位置づけ	H24.4 月		
事業概要	江戸時代から引き継がれてきた芸西村の白玉糖（黒糖）の品質を向上させ、白玉糖を活用した新商品の開発や販路拡大、商品の磨き上げを行うことにより、認知度の向上と地域活性化につなげる。		

主な取り組み	これまでの主な動き	主な成果・課題
白玉糖の品質及び認知度の向上	取り組みの内容 <芸西村伝承館製糖組合> ・白玉糖吹き上げ体験プログラムの実施（H27～） ・土佐の観光創生塾を受講し、体験プログラム（サトウキビ収穫体験）を造成（R2） ・白玉糖のチラシ作成及びハシワールドオープンでの配布、北海道でのラジオ出演による広報活動（R4） →6次産業化商品販路拡大活動事業費補助金の活用 ・文化庁100年フード事業に「白玉糖」が認定（R4） ・さんしんGO!で「芸西村伝承館製糖組合による黒糖（白玉糖）づくり」放送(R6) ・日曜市での白玉糖販売(R6、7) <集落活動センターがいせい> ・関西万博での白玉糖加工品販売(R7)	【成果】 ・集落活動センターがいせいのサトウキビ栽培 R2:7畝→R6:8畝 ・集落活動センターがいせいの白玉糖加工品等取引先 R2:1事業所 →R6:10事業所 【課題】 ・サトウキビ栽培者の高齢化による生産者の減少 ・製糖組合及び集落活動センターがいせい加工部会の担い手確保 ・現製糖施設の老朽化 ・HACCPに沿った衛生管理への対応 ・白玉糖の品質及び認知度の向上 ・白玉糖の販路拡大 ・加工品のさらなる開発とブラッシュアップ、販路拡大
白玉糖を使った特産品づくりと外商活動	<集落活動センターがいせい> ・専門家の指導のもと、白玉糖加工品を開発（R元～） ・商品パッケージ及びPOP作成（R元）→「うちのビジネス塾」活用 ・集落活動センターの拠点施設を一部改修し、生産拠点として整備（R元） ・新商品の開発→中山間地域振興アドバイザーの活用（R3、4） ・グルメ&ダイニングスタイルショー@東京に参加（R4、5） ・高知県産品商談会@ざんセンターに参加（R4） ・ふるさとえいもん集マルシェへの参加（R4、5、7） ・「食のイノベーション」を活用した商品の磨き上げ(R6) ・第3回 Good Foods EXPO 関西への参加(R6) ・パンフレット、ホームページ、動画を作成(R7) →よろず支援拠点、集落活動センター推進事業費補助金の活用 ・ECサイトを作成し、白玉糖加工品の販売を開始(R7)	

安芸地域アクションプラン

指標	出発点	実績			目標	
		R6	R7	R8	R9	
(1)伝承館でのサトウキビ取扱量	40.4t (R4)	32.9t			44.0t	
(2)体験プログラム参加人数	49人 (R4)	12人	27人		200人	
(3)白玉糖加工品販売額 (集落活動センターがいせい)	142万円 (R4)	356万円			180万円	

第5期計画における行程表

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
白玉糖の品質向上 ■ 芸西村伝承館製糖組合 ・白玉糖生産者へのサトウキビ栽培、品質管理等の均一化 ・脱草機による生産者の収穫支援 ・ニーズに合わせた商品開発 ■ 集落活動センターいせい ・原料となるサトウキビの栽培・管理 ■ 芸西村 ・HACCP に沿った衛生管理に対応するための新施設設置の検討 □ 県（地域本部等） ・無農薬、化学肥料を使わない栽培方法等の情報提供	白玉糖の品質向上			
白玉糖の認知度向上 ■ 芸西村伝承館製糖組合 ・組合の販売力強化 ・伝承館における既存体験プログラムの磨き上げ □ 県（地域本部等） ・各種支援策に関する情報提供	老朽化した製糖施設の改善			
特産品づくりと外商活動 ■ 芸西村伝承館製糖組合 ・イベントへの出店 ・販路拡大のための営業活動 ■ 集落活動センターいせい ・白玉糖を活用した新商品の開発 ・消費者からの意見を踏まえた商品の改善、商品の製造工程や賞味期限等の見直しによる磨き上げ ・ホームページ作成・管理、ECサイトでの加工品販売 ■ 芸西村 ・ふるさと納税返礼品での取扱い □ 県（地域本部等） ・研修・セミナー等の情報提供、中山間地域振興アドバイザー等の活用による専門家派遣の提案、工業技術センターによる成分等の分析	体験プログラムの磨き上げ			
			新商品の企画・開発	
			外商の展開	

安芸地域アクションプラン			分野	林業
AP 名 (実施地域)	No. 4 馬路の林業加工品の販売促進 (馬路村)			
実施主体	◎(株)エコアス馬路村、◎馬路林材加工協同組合、馬路村森林組合			
AP への位置づけ	H21.4 月			
事業概要	販路の拡大や新商品の開発、生産性の高い加工機械の導入等により木材や木製品の販売を促進し、事業体の雇用の確保と経営の安定化を図る。			

主な取り組み	これまでの主な動き		主な成果・課題
	取り組みの内容		
営業力の強化	＜(株)エコアス馬路村＞ ・木製バッグ monacca シリーズの追加と塗装改良（H21、H24、H29） ・靴べらの追加(Kutu-bera)(H21～25) ・新商品の開発等（H21、H22）→産振補助金の活用 ・国内外の展示会への出展等（H21～） ・HP のリニューアルによる直販の強化（H25～） ・新商品の販売促進（H29）→産振補助金の活用 ＜馬路林材加工協同組合＞ ・関西圏への販路拡大（H30、R4）→産振アドバイザー制度の活用 ・住宅をキット化した馬路モデルの販売（R4～） ・大都市圏への販路拡大に向けた情報発信の強化（R6）→産振アドバイザー制度の活用 ・海外への販路拡大（R6～） ＜馬路村森林組合＞ ・新商品（骨壺、子供用ベッド）の開発（H22） ・工芸品の販売業務を(株)エコアス馬路村に移管（H24） ・HP の開設（R7）		【成果】 ＜(株)エコアス馬路村＞ ・塗装改良や商品開発による販売アイテムの拡充 ・ウェブサイトをカタログ等の営業推進ツールの拡充 ・レーザー加工機の導入 ＜馬路林材加工協同組合＞ ・馬路村森林組合 ・加工機械の一部入替えによる生産性の向上 ・乾燥機の導入による製品の品質向上 【課題】 ・施設の老朽化 ・人手不足 ・木材・木製品の販路拡大 ・馬路村産の木材等の総合的なブランディングによる差別化 ・新たな営業・販売の手法やルートの確立
	収益性の改善	＜(株)エコアス馬路村＞ ・レーザー加工機 1 台の導入（H29） ＜馬路林材加工協同組合＞ ・送材車 1 台、帯鋸盤 1 台の導入（H24） ・乾燥機 2 基の導入（H26、R5） ・ツイン丸鋸盤 1 台・自動スタッカー 1 台の導入(R 元) ・モルダー 1 台の導入（R3） ・経営コンサルタントを活用した事業戦略の策定及び支援（H30、R 元～） ＜馬路村森林組合＞ ・経営コンサルタントを活用した中期経営計画の策定(H24) ・丸棒削機 1 台、乾燥機 1 基の導入（H25）	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)木製品出荷額※	2.53 億円 (R4)	1.59 億円			2.53 億円
(2)雇用者数(加工部門)	21 人 (R4)	20 人			22 人

※会計年度（株）エコアス馬路村、馬路林材加工協同組合：4 月～3 月
馬路村森林組合：1 月～12 月

第 5 期計画における行程表					
事業概要			R6	R7	R8 R9
販路の開拓 ■(株)エコアス馬路村、馬路林材加工協同組合、馬路村森林組合 ・首都圏で開催される木製品販売に関連した展示会への出展 ・産振アドバイザーを活用した都市部の工務店への企業訪問 ・製品の品質やラインナップをユーザーに伝えるための商品カタログ等の製作やウェブサイトの改修 ・村と一緒に都市部の自治体が森林環境譲与税を活用して木材利用に取り組み案件に対する働きかけ □県（地域本部等） ・産振アドバイザーなどの活用可能性の検討 ・各種支援制度に関する情報提供					商品カタログの製作、ウェブサイトの改修等
新商品の開発 ■(株)エコアス馬路村 ・新商品のアイデアの公募や企画会議の実施 ・試作品の製作や利用モニタリングの実施、新商品の製造 ■馬路林材加工協同組合 ・新商品の開発 □県（地域本部等） ・各種支援制度に関する情報提供 ・産振アドバイザーなどの活用可能性の検討					販路開拓及び新たな用途への活用の検討
加工機械の導入 ■(株)エコアス馬路村、馬路林材加工協同組合、馬路村森林組合 ・加工精度の低下や故障の頻発が生じている老朽化した加工機械の入替え等による品質や生産性の向上 □県（地域本部等） ・産振補助金の活用可能性の検討 ・各種支援制度に関する情報提供					新商品開発及び既存商品の改良
経営体質の強化 ■(株)エコアス馬路村、馬路林材加工協同組合 ・経営コンサルタントを活用した事業戦略の策定、実行支援による仕入れや生産等の管理の強化 ・経営コンサルタントの支援を通じて得た手法を活用し、自主的に実践・検証 □県（地域本部等） ・各種支援制度に関する情報提供					加工機器の導入
					経営体質の強化

安芸地域アクションプラン

分野		水産業
AP 名 (実施地域)	No.5 芸東地域の水産物の付加価値向上と販路拡大 (室戸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町)	
実施主体	【漁業者】◎(株)美阿丸、土佐室戸鰯軍団、室戸市定置漁業振興協議会、中芸定置網漁業振興協議会、【水産加工業者】◎(有)タカシン水産（佐喜浜工場）、◎(有)山本かまぼこ店、漁師の食卓、(株)岡水産	
AP への位置づけ	H21.4 月	
事業概要	芸東地域の定置網漁獲物や近海マグロを中心に、漁業者や水産加工業者による加工品の開発・製造・販売を進め、付加価値向上・漁業所得の向上につなげる。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
漁業者による加工品の製造販売	＜定置網漁獲物＞ ・低利用魚の簡易加工品試作（H26） ＜近海マグロ＞ ・若手船主を中心に結成された「土佐室戸鰯軍団」による出前授業やイベントでの PR（H29～） ・未利用部位の加工品開発（H29～R2）、道の駅や飲食店等での販売、ふるさと納税返礼品への採用（H30～） ・加工機器の導入（R3～4） →新事業チャレンジ支援事業費補助金の活用 ・商品開発と販路開拓（R4）→高知銀行による支援事業の活用 ・(株)美阿丸が新たな加工場を建設（R5.2） →室戸市企業立地促進事業費補助金の活用	【成果】 ・マグロ加工品の販売額 H29：0 万円 →R6：767 万円 ・水産加工品販売額 H22：0.4 億円(1 社のみ) →R6：2.0 億円 【課題】 漁業者による加工品の製造販売 ・新商品の開発スキル向上やネット販売による販路拡大 ・加工場における製造体制の確立
水産加工業者による加工品の製造販売	＜(有)タカシン水産＞ ・加工場整備（H21）→産振補助金の活用 ・地域漁獲物を用いた加工事業の実施（H21～） ・ふるさと納税返礼品への採用（H27～） ・HACCP 取得に向けた施設整備と内製化に向けた機器整備（R2～3）→新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金の活用 ・EC サイト運営（R3～） ・新県版 HACCP 第 2 ステージ認証更新（R5.6） ＜(有)山本かまぼこ店＞ ・商品開発・新工場の基本設計・事業（R2）→産振補助金の活用 ・設備導入（R3）→ 新事業チャレンジ支援事業費補助金の活用 ・加工場の整備検討（R3～4） →産振補助金の活用を検討したが資材高騰等により中止 ・ペットフード製造のための加工場整備（R7） →事業再構築補助金の活用 ＜(株)岡水産＞ ・加工場の整備検討（R6～R7）→産振補助金の活用（R6）	水産加工業者による加工品の製造販売 ・生産性の向上、衛生管理体制の強化 ・建設資材等高騰による施設整備費の上昇 ・さらなる販路開拓、販売促進

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)漁業者による加工品販売額	90 万円 (R4)	767 万円		R8	R9 700 万円
(2)水産加工業者の販売額	2.3 億円 (R4)	2.0 億円			3.0 億円

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
新商品の開発やネット販売による販路拡大 ■ (株)美阿丸 ・商品ラインナップの拡充、販路開拓 □県(地域本部等) ・産振補助金の活用、各種研修会への参加呼びかけ 加工場における製造・販売体制の確立 ■ (株)美阿丸 ・地元及び自社内での原魚調達による加工品製造の強化 ・HACCP に沿った衛生管理体制の構築 水産物の PR ■ 土佐室戸鰯軍団 ・「マグロ解体ショー」やマグロ加工品の販売等による広報				商品開発、販路拡大	
生産性の向上と販路拡大 ■ (有)タカシン水産、(有)山本かまぼこ店、漁師の食卓 ・販路開拓、商品開発 ■ (有)山本かまぼこ店 ・既存施設における衛生管理体制の構築 □県（地域本部等） ・各種支援制度に関する情報提供、各種商談会等の紹介、関係者への橋渡し、衛生管理に関する講習会等の紹介 施設整備 ■ (有)山本かまぼこ店、(株)岡水産 ・HACCP に沿った衛生管理に対応した施設整備 （(株)岡水産は産振補助金を活用） □県（地域本部等） ・産振補助金の活用、申請支援、補助制度に関する情報提供等				販路開拓・商品開発	
				衛生管理体制の構築	
				ハ°ット°加工場整備	
				事業計画・実施設計	
				加工場整備	加工・物販開始
					衛生管理体制の構築

安芸地域アクションプラン		
分野		商工業
AP 名 (実施地域)	No.6 道の駅キラメッセ室戸を核とした地産地消・外商の拡大 (室戸市)	
実施主体	◎協同キラメッセ室戸(有)、◎室戸市	
AP への位置づけ	H25.4 月	
事業概要	道の駅キラメッセ室戸「楽市」「食遊」を拠点とし、地域産品の充実や販売、食の提供を促進するとともに、周辺施設と連携することで、地産地消・外商及び交流人口の拡大を図る。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
農作物の確保	・庭先集荷開始（H28～） ・新品目生産のための生産者説明会の開催（H29～） ・集荷日数・ルート拡大（H30～） ・県内外の道の駅との直販所交流開始（R4～）	【成果】 ・庭先集荷した野菜等の出荷額 H29：27万円 → R6：701万円 ・ふるさと納税額 H27：7,555万円 → R6：6,336万円 ・交流直販所数（累計） R4：4カ所 → R6：5カ所
加工品の開発、販路拡大	・ふるさと納税返礼品等の拡充（H26～） ・「楽市」加工場整備（H26）→ 産振補助金の活用 ・6次化セミナー実践コースの受講（H28～R元：8回） ・秋津野ガルドン（和歌山県）等視察（H29） ・6次化セミナーを通じて開発した商品の販売（R元～） ・HACCP研修参加（R2.10月） ・県外道の駅との連携検討（R3.10月、12月） ・県外道の駅との連携開始（R4～）	【課題】 ・農産物出荷者の高齢化に伴う集荷体制の強化 ・農産物（特に夏場）の商品不足 ・ネット通販の強化 ・加工品の販路拡大 ・レストラン「食遊」における既存メニューのブラッシュアップ
レストラン「食遊」の充実に伴う地産地消・外商の推進	・レイアウト改修（R5.10～12月）	

安芸地域アクションプラン		
分野		商工業
AP 名 (実施地域)	No.6 道の駅キラメッセ室戸を核とした地産地消・外商の拡大 (室戸市)	
実施主体	◎協同キラメッセ室戸(有)、◎室戸市	
AP への位置づけ	H25.4 月	
事業概要	道の駅キラメッセ室戸「楽市」「食遊」を拠点とし、地域産品の充実や販売、食の提供を促進するとともに、周辺施設と連携することで、地産地消・外商及び交流人口の拡大を図る。	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)売上高	4.63 億円 (R4)	4.46 億円		R8	R9 5.2 億円
(2)レジ通過者数	285,866 人 (R4)	267,716 人			310,000 人

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
庭先集荷の強化 ■協同キラメッセ室戸(有) ・庭先集荷ルート拡大の検討、デジタル技術の活用等による集荷の効率化等の検討 ■室戸市 ・庭先集荷事業に対する支援の継続 □県（地域本部等） ・各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し			庭先集荷の強化に関する検討		
直販所連携の強化 ■協同キラメッセ室戸(有) ・既存の交流直販所との取引拡大、新規交流先の開拓 □県（地域本部等） ・各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し			新規取引先の開拓		庭先集荷事業拡大
加工品の開発、販路拡大、惣菜類（お弁当等）の充実 ■協同キラメッセ室戸(有) ・加工品の開発、ネット通販の強化、直販所連携の強化、HACCP に沿った衛生管理体制の構築、高齢者への配食サービス等に関する検討、既存施設を活用した第 2 加工場整備に係る検討 ■室戸市 ・ふるさと納税返礼品への積極的活用、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し □県（地域本部等） ・各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し			加工品の開発		
			ネット販売・直販所連携等を通じた販路拡大		
			第 2 加工場整備に係る検討		
提供メニューの改善、情報発信 ■協同キラメッセ室戸(有) ・「楽市」との連携を通じて季節ごとの地場産品を活用したメニュー開発、SNS 等を活用した情報発信 □県（地域本部等） ・産振アドバイザー活用に係る支援、各種支援制度に関する情報提供、情報発信支援			メニュー検討		
				リニューアルメニュー提供開始	

安芸地域アクションプラン			分野	商工業
AP 名 (実施地域)	No.7 安芸市中心市街地の活性化 (安芸市)			
実施主体	◎ 安芸商工会議所、安芸本町商店街振興組合、安芸市、For the future			
AP への位置づけ	H29.4月			
事業概要	にぎわいと活力のある中心市街地を目指し、地域内外から人が集まる仕組みづくりや中心市街地の魅力を高める取り組みを進めることで商店街や周辺地域の活性化を図る。			

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
中心市街地のにぎわい創出に向けた取り組み	・全国「商い甲子園」大会開催（H20～） ・安芸市中心商店街等振興計画策定に向けたワークショップ実施 →事業経営アドバイザー制度の活用（R3～R4） ・安芸市中心商店街等振興計画策定（R4） ・安芸市中心商店街等振興計画に基づく取り組み（軽トラマルシェ、浜弁当、高校生マルシェ、MAP 制作、東洋的漫遊祭、商い甲子園大会、かがりビーチ）を実施（R4～） ・安芸市中心商店街等振興計画の延長に向けたワークショップ実施 →事業経営アドバイザー制度の活用（R6）	【成果】 ・全国「商い甲子園」大会 R5：1,000 人来場 - R6：1,000 人来場 - R7：1,000 人来場 ・軽トラマルシェ来場者数 (R4) 合計 1,507 名 (R5) 合計 2,243 名 (R6) 合計 1,330 名 ・高校生マルシェ来場者数 (R7) 合計 569 名 ・空き店舗等を活用した新規開業 R3：3 件、R4：2 件、R5：1 件、R6：4 件、R7：2 件 ※安芸市中心商店街等振興計画エリア 【課題】 ・中心市街地の事業者の連携強化 ・各取り組み実施主体の人員不足
空き店舗等を活用した新規開業の促進に向けた取り組み	・チャレンジショップ実施 ・コミュニティスペース「満子の部屋」空き家活用に向けたワークショップ実施 →産振アドバイザー制度の活用（H29） 「満子の部屋」の開設（H30～） ・空き店舗等調査実施 →人口減少対策総合交付金(連携加算型)の活用（R6） ・空き店舗バンクの開設（R6）	
推進体制の強化に向けた取り組み	・商店街内のギフトショップを中核とした市内事業者グループによる地域産品コラボギフトの企画・販売（R2～） ・安芸市中心商店街等振興計画に基づく取り組み（たまり場）を実施（R4～） ・安芸市・安芸商工会議所が包括連携協定を締結（R7）	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)空き店舗等を活用した新規開業	2 件 (R4)	4 件	9 件		5 件 (R6～9 累計)
(2)事業者数	95 店舗 (R4)	94 店舗			95 店舗

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
にぎわい創出 ■ 安芸商工会議所、安芸本町商店街振興組合、For the future、安芸市 ・振興計画に基づく取り組み実施（マルシェ、東洋的漫遊祭等） ・R7 以降の計画の検討、取り組み実施 ・全国「商い甲子園」大会の拡充及び経済波及効果が生まれる手法の検討 ・HP や SNS などを利用した情報発信 □県(地域本部等) ・状況に応じた支援策（商店街等振興計画推進事業費補助金・産振アドバイザー等）の提案 ・関係課への橋渡し、先進事例等の情報提供 ・SNS などを利用した情報発信		計画に基づく取り組みの実施	次期計画検討	中心市街地のにぎわいを創出する取り組みの実施	
空き店舗等の情報収集・発信 ■ 安芸商工会議所、安芸本町商店街振興組合、安芸市（ほか） ・新規開業希望者向けの空き店舗等情報の収集・提供 □県(地域本部等) ・関係課への橋渡し、産振アドバイザー等の活用提案				空き店舗等調査	
				空き店舗等の情報発信	
商店街組織等の体制強化 ■ 安芸商工会議所、安芸本町商店街振興組合、安芸市（ほか） ・事業者間で情報共有する仕組みの構築 ・来店者への他店舗の情報提供など個店の連携による中心市街地及び周辺地域の周遊促進・消費拡大 ・R7 以降の取り組みの維持発展に向けた各実施主体の連携促進・人材育成 ・地域おこし協力隊導入の検討 □県(地域本部等) ・産振アドバイザー等の活用提案、先進事例等の情報提供				主体性の醸成に向けた交流会・報告会の実施	
				イベントの開催を通じた個店の連携強化	

安芸地域アクションプラン		
分野		商工業
AP 名 (実施地域)	No. 8 道の駅東洋町を拠点とした地域振興 (東洋町)	
実施主体	◎東洋町、◎指定管理者（(株)FoundingBase）、生産者、地域団体	
AP への位置づけ	H21.4月	
事業概要	高知県の東の玄関口である東洋町の観光の窓口及び地元特産品の販売、飲食施設等の機能を持つ「道の駅東洋町」を核とした交流人口の拡大により、地域の活性化を図る。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
誘客の促進	・「道の駅東洋町」の整備（H20.1月） ・火災による焼失（H24.7月） ・再建、運営開始（H26.1月～） →産振補助金の活用（H24～25） ・農林水産物直販所運営管理者及び安心係等発展講習会参加（H29） ・駐車場などを活用したイベント誘致 ・高知6次産業化サポートセンターよりプランナー派遣（R元～3） ・自動ドア新設、キャッシュレス決済対応レジ・屋外席用備品購入（R2）→新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金の活用 ・駅長の設置（R3） ・地域活性化起業人制度の活用（R4～） ・BBQ事業の開始（R4） ・直販所交流（R4～） ・指定管理による運営開始（R5） ・「道の駅」として国土交通省への登録完了（R6.8月） ・公式HPとECサイトの開設（R6.10月）	【成果】 ・駅長（責任者）の設置による運営体制の強化 ・地元の魚を使ったメニューやお惣菜の提供 ・売上高 R元:1.68億円 →R6:2.54億円 ・入込客数 R元:175,666人 →R6:187,248人 ・直販所交流 交流直販所数:33カ所（R7.11月時点累計） 【課題】 ・認知度向上 ・集客強化 ・ピーターの確保 ・町内事業者（出品者）との協力体制の構築 ・主力商品である魚の安定供給 ・町内事業者、地域団体との連携 ・白浜キャンプ場の活用 ・冬の閑散期対策
観光機能の強化	・BBQ事業の開始、カツオの燻焼き体験の試行（R4） ・東洋町の観光情報をスタッフ間で共有（R4） ・白浜キャンプ場の運営委託開始(R5) ・自然休養村の改修に向けた設計等の検討（R7）	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)売上高	1.86億円（R4）	2.54億円			3.25億円
(2)来場者数	169,520人（R4）	187,248人			200,000人

第5期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
魅力的な店舗づくり ■東洋町、指定管理者 ・店内レイアウトの工夫 ・ワークショップ・マルシェ等イベントの実施・誘致 ・SNSを活用した情報発信 ・町内外イベントへの出店 ・BBQ事業 ・店舗内商品の充実 □県（地域本部等） ・各種支援制度に関する情報提供 ・関係機関への橋渡し					
直販所交流 ■指定管理者 ・特産品の直販所交流による道の駅東洋町のPR ・店舗内商品数の充実 □県（地域本部等） ・各種支援制度に関する情報提供及び関係機関への橋渡し					商品数の充実
					販売方法の工夫
					直販所交流等を活用した道の駅東洋町のPR
新たな観光コンテンツの造成 ■東洋町、指定管理者 ・自然休養村の改修 ・体験プログラムの造成 ・地域団体との連携 ・白浜キャンプ場の運営委託 □県（地域本部等） ・各種支援制度に関する情報提供及び関係機関への橋渡し					
観光窓口機能の充実 ■指定管理者 ・（一社）東洋町観光振興協会との連携 □県（地域本部等） ・関係機関への橋渡し					
					計画策定
					施設整備
					運営開始
					体験プログラムの造成

安芸地域アクションプラン		
分野		商工業
AP 名 (実施地域)	No.9 なはりの郷を核とした特産品の販売促進と体験型観光の推進 (奈半利町)	
実施主体	◎(一社)なはりの郷、◎奈半利町、奈半利なんでも市加工グループ、NCL48、JA 高知県（安芸地区）、なはり浦の会	
AP への位置づけ	H26.4 月	
事業概要	集落活動センターなはりの郷が中心となり、地域食材を活用した特産品の開発・販売を促進して地産外商を強化するとともに、海浜センターや地域資源（生活体験学校等）を活用した体験型観光を推進することにより、交流人口の拡大を図る。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
地産外商体制の強化	【(一社)なはりの郷】 ・予実管理の徹底など経営意識を醸成（R3） →産振アドバイザー制度の活用 ・「なはりの郷を核とした地域振興プロジェクト」会議の開催、経営理念、事業戦略等を策定（R5） →産振アドバイザー制度の活用 ・イチジクを活用した加工品の開発(R6～R7) →高知地域資源活用・地域連携サポートセンター事業の活用 ・物産館無花果リニューアルにかかる基本計画の策定(R7) →産振補助金の活用 【奈半利なんでも市加工グループ（奈半利味噌）】 ・施設の増床及び機械の追加導入（H26）→産振補助金の活用	【成果】 ・「なはりの郷を核とした地域振興プロジェクト」の実施による経営改善及び新事業の検討 ・イチジクの作付面積拡大 H28:0a →R7:45a ・海浜センター体験メニューの充実及び利用客の増加 【課題】 ・新加工品の PR ・出口戦略の検討 ・人材不足
一次産業の振興	【(一社)なはりの郷】 ・施設の整備及び機械の導入（H29） →複合経営拠点支援事業費補助金の活用 ・備品整備（H29）→集落活動センター推進事業費補助金の活用 ・農作業受託、新規就農者受入れ等の推進（H29～） ・不耕作地対策事業によるイチジク作付面積の拡大（H29～）	
体験型観光の推進	【奈半利町】 ・奈半利町観光基本構想の策定（R 元） ・海浜センターの備品(クリアキャック等)を整備(R2) →観光施設等緊急整備事業費補助金の活用 ・奈半利町観光基本計画・基本設計の策定（R2） →地域観光振興交付金の活用 ・海浜センターの改修及びキャンプサイトの整備等（R3） →地域観光振興交付金の活用	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)物産館無花果の売上高	3,302 万円 (R4)	3,973 万円		R8	R9 5,000 万円
(2)農水産加工施設の店舗売上高	1,712 万円 (R4)	1,861 万円			2,100 万円
(3)JA 加工施設（奈半利味噌）の売上高	843 万円 (R4)	852 万円			930 万円
(4)奈半利町観光入込数	50 千人 (R4)	52 千人			55 千人

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
関係者の連携による販売商品の充実 ■(一社)なはりの郷 ・関係者の連携による新商品の開発 ・既存商品の磨き上げ ・販売戦略の策定 ・物産館無花果リニューアル □県（地域本部等） ・既存商品の磨き上げなどに関するセミナーの情報提供 ・商談会等の情報提供 ・産振補助金の活用、申請支援、補助制度に関する情報提供等		関係者協議			
			新商品開発、磨き上げ		
			販売戦略の策定		
		物産館検討	基本計画	設計着工	新装開店
特産品の生産強化 ■(一社)なはりの郷 ・農作業指導者と研修生の確保、育成 ・移住フェアへの参加 □県（地域本部、安芸農振センター等） ・栽培管理指導等 ・各種支援制度に関する情報提供		指導者確保	研修生確保		
				研修生育成	
		部門間協議	特産品生産体制の構築		
観光施設、地域資源の活用促進 ■(一社)なはりの郷 ・他団体と連携した体制強化 ・加齢郷小学校閉校跡施設の活用 ・地域おこし協力隊制度を活用した人材確保の仕組みづくり □県（地域本部等） ・各種支援制度に関する情報提供		他団体協議	新たな体験メニューの検討		
				設計着工	運営開始
			人材確保の仕組みづくり		

安芸地域アクションプラン		
分野		商工業
AP 名 (実施地域)	No.10 道の駅「田野駅屋」の機能強化に向けた取り組み (田野町)	
実施主体	◎道の駅指定管理者（たの未来プロジェクト(株)）、◎ 田野町、加工施設指定管理者（中芸食材工房）、生産者組織、地域団体	
AP への位置づけ	H21.4月	
事業概要	地域の特産品の販売や、観光情報の発信などの役割を担っている田野駅屋において、「阿南安芸自動車道」の整備を見据え、田野駅屋が観光の目的地や、道路利用者にとって安芸以東の地域における安心して休憩できる場となるよう再整備を行う。 再整備にあたっては、令和5年度に策定した基本計画を元に、観光客や道路利用者だけでなく、地域のあらゆる世代が活躍する舞台となる地域拠点や地域コミュニティを目指していく。	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)店舗売上高※	2.7 億円 (R4)	2.8 億円	2.8 億円		R9 3.3 億円
(2)入込数※	233 千人 (R4)	236 千人	231 千人		300 千人

※会計年度：1月～12月

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
機能強化のための施設等整備	・トイレの洋式化及びWi-Fi整備（H28） ・レンタルサイクル小屋の整備（H30） →観光拠点等整備事業費補助金の活用 ・再整備基本計画の基礎資料である、基本構想を策定（R4） ・再整備基本計画策定検討委員会の開催（R5） ・住民ワークショップ、住民アンケートの実施（R5） ・再整備基本計画の策定（R5）→産振補助金の活用	【成果】 ・売上高の増加 R2：2.5億円 →R6：2.8億円 ・新商品の開発（累計） H21：0件 →R6：6件
直販・飲食機能及び運営体制の強化	・新メニューの開発（H30） ・中芸高校生オリジナルレシピ「田野学館弁当」の販売開始（H30～） ・町100%出資の「たの未来プロジェクト(株)」が道の駅指定管理者として運営開始（R元～）	【課題】 ・狭小な駐車場 ・販売スペースの不足 ・出店事業者の後継者の確保 ・人材不足
加工品の開発・販売の強化	・新たなスイーツの開発（塩シャベット「塩姫」、生妻のお菓子「爪の垢」等）、販売開始（H24～） ・田野お土産BOXの販売開始（H30～） ・完全天日塩を使用した塩ラーメンを期間限定で販売（R2）	
情報発信機能の強化・交流人口の拡大	・地域イベントへの参加や独自イベントの開催（H21～） ・田野駅屋拡張による情報発信コーナーの整備（H23） ・GW期間中の臨時観光案内所の開設（H23～） ・ごめんなばり線ウォーキングイベントの受入れ（H22～） ・田野町、道の駅指定管理者、地域本部で情報共有会議の実施（H28～30）	

第5期計画における行程表								
事業概要			R6	R7	R8	R9		
再整備に向けた検討 ■ 田野町 ・重点「道の駅」への選定を視野に入れた整備内容の検討 ・事業財源の検討 ・PPP/PFI導入の検討 ・駐車場の拡張 □ 県（地域本部等） ・各種支援制度の紹介					設計			建設工事
地域連携機能の強化 ■ 田野町 ・事業継承による後継者の確保 ・ふるさと納税や通販事業による物販機能の強化 ・集落活動センター設立の検討及び防災備蓄倉庫等の導入機能の整備 ・農作物栽培による耕作放棄地対策及び生きがいづくり □ 県(地域本部等) ・キーパースンの掘り起こし ・集落活動センター制度の紹介、提案 ・各種支援制度の紹介				仕組み検討				
					集落活動センター設立の検討			
広報の強化による集客の増加 ■ 道の駅指定管理者、田野町 ・観光情報の案内機能の整備 ・ホームページやSNS等による広報強化、更新頻度の増加 □ 県(地域本部等) ・広報戦略に関する産振アドバイザーの活用 の提案				他団体協議				周辺観光情報の集約・発信

安芸地域アクションプラン		
分野		商工業
AP 名 (実施地域)	No.11 やすだ資源を生かした新商品開発による地産外商の推進 (安田町)	
実施主体	◎ 安田町、生産者、製造販売者	
AP への位置づけ	H24.4月	
事業概要	安田町内の地域資源を生かした新商品開発に取り組み、販路開拓・拡大による地産外商を推進する。	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)加工事業参入事業者	0 件 (R4)	1 件	1 件		3 件 (R6～9 累計)
(2)地域資源を活用した新商品開発	0 件 (R4)	0 件	2 件		6 件 (R6～9 累計)

主な取り組み	これまでの主な動き		主な成果・課題
	取り組みの内容		
地域資源を生かした加工品の製造・販売	・製造販売拠点「安田と夢ファクトリー」の整備(H23) ・マンガーを活用した大福「安田の白い夢」製造・販売開始(H24～29) ・町所有のマンガー生産施設 1 棟増築(R 元) ・キャンプ場指定管理者紹介のパライシエにスイーツ開発に関して監修を依頼(R4) ・高知県事業承継・引継ぎ支援センターへ相談(R4～R6) ・地産外商公社から紹介を受けた民間事業者が製造販売拠点を視察(R6) ・製造販売拠点の指定管理者の募集及び決定(R6) ・指定管理者によるやすだ資源を生かした新商品の開発・販売(R7)	【成果】 ・「安田の白い夢」の認知度の向上 ニッポン全国物産展ご当地おやつランキング入賞 H25：5 位入賞 H27：準グランプリ受賞 ・製造販売拠点施設を運営するための事業者を確保 ・やすだ資源を生かした新商品の開発：2 件(R7)	
新商品開発に向けた新たな地域資源の掘り起こし	・加工に適した作物選定のための JA への声かけ(R 元) ・新商品開発に向け、地産外商公社がマンガー生産施設を視察(R6) ・地産外商公社からの紹介を受けた民間事業者がマンガー生産施設を視察(R6) ・指定管理者と、酪農家及び集落活動センター等の地域団体との間で地域資源の納品契約締結(R7)	【課題】 ・安田町産の作物を活用した新商品の開発(マンガー大福等)	

第 5 期計画における行程表								
事業概要			R6	R7	R8	R9		
生産体制の確立 ■ 安田町 ・製造再開及び新商品開発のための人材及び原材料確保 ・製造販売拠点の設備整備 □ 県(地域本部等) ・人材確保に向けた関係機関への情報提供 製造再開による販路開拓 ■ 生産者、製造販売者 ・県内外の商談会やフェア等への出展 ・原材料の安定的な入手に向けた取り組み ■ 安田町 ・新商品の販売ルートの紹介等の販売促進支援 □ 県(地域本部等) ・高知県地産外商公社等への橋渡し支援 ・各種支援制度に関する情報提供	生産体制の確立							製造再開による販路開拓
加工に適した作物選定 ■ 安田町、生産者、製造販売者 ・JA 等と連携した加工に適した作物の選定 □ 県(地域本部等) ・他地域に関する情報提供及び関係機関への橋渡し 新商品の開発による販売促進 ■ 生産者、製造販売者 ・市場調査及び試作品の製作、商品化実現 ・県内外の商談会やフェア等への出展 □ 県(地域本部等) ・商品開発に関する産振アドバイザーや 6 次産業化サポートセンターの活用 の提案及び研修会等への参加呼びかけ ・各種支援制度に関する情報提供								作物選定
								新商品の開発

安芸地域アクションプラン		
分野		商工業
AP 名 (実施地域)	No.12 地場産品直販所「かつば市」を核とした地域活性化 (芸西村)	
実施主体	◎(有)かつば市、芸西村、生産者グループ	
AP への位置づけ	H22.4 月	
事業概要	地場産品直販所「かつば市」において、安定供給の仕組みを作るとともに、他の直販所との商品交流や、魅力的な商品づくりに取り組むことにより、地場産品の消費拡大を進め、地域経済の活性化につなげる。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
魅力ある店舗づくりと顧客獲得の取り組み	＜かつば市＞ ・リニューアルオープン（H23）→ 産振補助金の活用 ・高知 6 次産業化サポートセンターによる戦略会議をスタート（R2～R3） ・来店者の回遊を図るため、レイアウトを変更（R2） ・POP の活用による商品群の販売促進（R3～） ・琴が浜で BBQ 事業を開始（R3～） ・駐車場を活用したキッチンカー等の出店（R3～） ・福祉事業の買い物代行サービス（御用聞き）利用者増のための広報（R5） ・かつば市駐車場の増設（R5） ・観光パンフレット置き場の拡充(R6) ・SNS による積極的な広報活動(R7～)	【成果】 ・かつば市の売上高 R2：1.41 億円 →R6：1.72 億円 ・直販所交流による品揃えの充実 【課題】 ・高規格道路延伸への対策の検討 ・シェアキッチンの活用による商品数の増 ・地元と連携した地域産品の販売促進 ・光熱水費の高騰による利益の減少
品揃えの充実及び外商活動	・朝どれ野菜を、芸西村のふるさと納税返礼品として出品（R3～） ・ふるさと納税への出品方法の工夫による夏場の注文数減の抑制（R5～） ・海の駅東洋町(現:道の駅東洋町)と商品交流を開始（R5～） ・物産館無花果と商品交流を開始（R5～） ・ふるさと納税返礼品準備のための作業場を拡充(R7)	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)かつば市売上高	1.62 億円 (R4)	1.72 億円	1.82 億円		2.07 億円
(2)シェアキッチンを活用した商品の数	2 品 (R4)	2 品	2 品		5 品 (R6～9 累計)

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
魅力ある店舗づくりと顧客獲得の取り組み					
■(有)かつば市					
・新商品をはじめとする商品のフェアの開催、顧客から要望の多い商品の取り扱いを検討					
・買い物代行サービスの認知度向上に向けた広報強化					
■芸西村（企画振興課）					
・シェアキッチンを活用してくれる人材の掘り起こし					
□県（地域本部等）					
・産振アドバイザーの活用提案、各種支援制度やセミナー等の情報提供					
直販所での観光案内機能の強化					
■(有)かつば市					
・村内の観光情報の発信					
■芸西村（企画振興課）					
・和食ダムや白玉糖などの村の魅力を、直販所で発信していく仕組みづくり					
・観光強化のための地域おこし協力隊導入の検討					
□県（地域本部等）					
・各種支援制度の情報提供					
品揃えの充実及び外商活動					
■(有)かつば市					
・直販所間での商品交流の促進					
・納税者のニーズに合わせたふるさと納税返礼品の検討					
■芸西村（企画振興課）					
・ふるさと納税での取扱い商品の PR					
・ふるさと納税納税者の声をフィードバック					
・ふるさと納税返礼品準備のための作業場拡充					
□県（地域本部等）					
・商談会等の情報提供、高知県地産外商公社への橋渡し支援					

安芸地域アクションプラン			分野	観光
AP 名 (実施地域)	No.13 安芸地域の観光振興の推進 (安芸地域全域)			
実施主体	◎(一社)高知県東部観光協議会、安芸広域市町村圏事務組合、市町村、観光協会等、地域団体、民間事業者			
AP への位置づけ	H21.4 月			
事業概要	広域観光組織の基盤を整備し、情報発信、体験プログラムの磨き上げ、教育旅行の受入れ等を行うとともに、歴史や食、自然の組み合わせによる観光クラスターの整備を推進することで、安芸地域外からの誘客を増加させて地域経済の活性化を図る。			

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
ひがしこうち魅力創出の推進	・体験型観光実施事業者への助成（H28～） ・中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会と連携し、日本遺産を活用した着地型商品造成・磨き上げ支援（H29～） ・四国運輸局事業の活用によるインバウンド向けコンテンツの造成・磨き上げ（R2） ・県の土佐の観光創生塾や商品造成事業を活用したコンテンツ造成（R3～） ・「食」の開発事業「香香柚子」による誘客推進（R3～） ・観光タクシージョランの造成（R4～） ・ホームページやSNS等及びテレビや雑誌、WEB等メディアを活用した圏域の情報発信（H28～） ・県内外のイベント等出展によるPR活動（H28～） ・旅行会社へのセールズ活動の展開（H28～） ・広域観光ガイドブック「ひがしこうち」の作成・活用（H30～） ・高知東部食プロジェクトによる周遊企画実施（R元～） ・教育旅行用セールズツールを作成し、旅行会社への商談会等で活用（R3） ・土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線、四国の右下観光局（徳島）と連携した周遊企画実施（R4） ・宿泊者向けクーポンによる誘客促進事業の実施（R4、R5）	【成果】 ・香香柚子グルメの販売額 120,870 千円（R3～R5） ・宿泊者向けクーポン 精算額 87,387 千円（R4、R5） ・ひがしこうち公式旅とくアブリ 会員数：1,320 人 消費額：3,011 千円（R4、R5）※運用終了 【課題】 ・観光客の長期滞在につながる体験プログラムの充実 ・事業者の高齢化やマンパワー不足を補うべく、デジタルツールの活用やSNSやWEBメディア等での情報発信による支援の強化が必要
下支える基盤整備の推進	・広域体験型商品の造成、拠点づくり（H21）→産振補助金の活用 ・(一社)高知県東部観光協議会設立（H27） ・観光庁 DMO 登録（R元） ・WEBシステムによるアンケート調査・分析（R元～） ・高知県観光地域づくり推進員の配置（R2～） ・観光庁実証事業による宿泊者データ収集分析システム及びCRMシステム構築（R3）運用（R4、R5） ・高知県東部広域観光振興計画（第2期）策定（R3） ・市町村観光担当課長会議の開催（R4～） ・観光動態分析ツールを活用したデータ収集・分析（R4～） ・四国南東部広域観光連携協議会への参画（R4～）	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)観光入込数※	1,882,480 人（R4）	1,853,127 人	1,829,423 人		2,429,018 人
(2)圏内宿泊者数※	142,884 人（R4）	134,537 人	169,414 人		172,038 人
(3)圏内観光消費額※	3,248,435 千円（R4）	3,599,498 千円	4,517,696 千円		4,245,118 千円

※ 1月～12 月

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
滞在型観光の推進 ■(一社)高知県東部観光協議会 ・ターゲット・ニーズ・テーマに沿ったモデルルートの造成、宿泊施設・二次交通・観光施設等を組み合わせた周遊促進商品の造成、県のキャンペーン等と連動した観光商品の造成支援 地元食材を生かした食観光の推進 ■(一社)高知県東部観光協議会、地域団体等 ・協議会の独自事業及び国事業等の活用によるご当地グルメ開発・磨き上げ支援育成					
情報発信の強化 ■(一社)高知県東部観光協議会 ・ホームページ及び SNS に掲載する情報の磨き上げ、関西圏及びインバウンドに向けた情報発信の強化 ・ガイドブック等の活用、県や広域で連携するイベントでの出展、物販 PR 等 ■(一社)高知県東部観光協議会、市町村、観光協会等 □県（地域観光課等） ・県のキャンペーン等と連動した情報発信 旅行会社へのセールズ強化 ■(一社)高知県東部観光協議会 ・商談会等出展・旅行会社への訪問セールズ実施、セールズ戦略の共有等					
マーケティング機能の強化 ■(一社)高知県東部観光協議会 ・観光客の行動等に関する各調査結果の分析を魅力づくり・情報発信に活用及び戦略・戦術への反映、地域へのフィードバック等 □県（地域観光課） ・観光客動向データの活用支援 広域観光の推進 ■(一社)高知県東部観光協議会 ・広域観光振興計画の PDCA の状況を共有するワーキンググループの開催、インバウンドやサステナブル・ツーリズムの推進等に対する地域内の連携強化 □県（地域観光課、地域本部） ■(一社)高知県東部観光協議会、市町村 ・四国南東部広域観光連携協議会での新たな周遊拡大に向けた取り組み					

安芸地域アクションプラン		
分野		観光
AP 名 (実施地域)	No.14 日本遺産を活用した中芸地域の活性化 (奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村)	
実施主体	◎ 中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会、奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会	
AP への位置づけ	H21.4 月	
事業概要	日本遺産認定を受けた魚梁瀬森林鉄道遺産やゆずロード等を活用し、中芸地域のインバウンドを含めた交流人口の拡大や文化活動の促進を図る。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
日本遺産を活用した地域の活性化及び交流人口の拡大	・案内看板の設置、写真パネル作成等の実施(H21) →産振補助金の活用 ・遺構周辺の遊歩道及び駐車場の整備等の実施(H22) →産振補助金の活用 ・魚梁瀬森林鉄道開通 100 周年記念イベント等の普及啓発事業等の実施(H23) →産振補助金の活用 ・日本遺産認定(H29) ・体験プログラムイベント「ゆず FeS」の開催(H29～12 回) ・ゆず林鉄 EXPO 開催(R2～R4) ・日本遺産中芸ゆずと森林鉄道ガイド会発足(R4) ・「中芸・地域ビジネス講座」開催(R4) →高知県地域の頑張る人づくり事業費補助金の活用 ・ガイド会備品整備及び植物図鑑の作成(R4) →高知県博覧会受入環境等整備支援事業費補助金の活用 ・ゆずロードミュージアム開館(R5) ・「第 1 回森林鉄道サミット in 高知&中芸日本遺産フェスティバル」開催(R5) ・阿里山林業鉄道（台湾）への視察(R6) ・中芸地域内イベント出展による普及啓発活動の実施(R6) ・日本遺産ウォーキングイベントの開催(R6～)	【成果】 ・「ゆず FeS」開催(H30～R 7 年度) 全 12 回(のべ数) プログラム数：211 参加者数：1,988 人 ・ガイド会登録人数 18 名(R7.11 月末) ・日本遺産の重点支援地域への選定(R5) ・林鉄サミットへの阿里山林業鉄道（台湾）関係者の招へい(R5) ・ゆずロードミュージアム毎日 開 館 （ 7/19 ～ 8/30） 時の来 場 者 数 (R7)：254 名 【課題】 ・観光コンテンツの磨き上げ ・旅行商品のプロモーション ・地域内外への情報発信 ・日本遺産サミット (R9) に向けた対応
協議会の体制強化	・「魚梁瀬森林鉄道」日本遺産推進協議会の設立(H28) ・中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会事務局発足(H30) ・協議会組織の運営体制の見直し(R2) →産振アドバイザー制度の活用 ・事務局を 4 名から 5 名に増員(R6) ・R9 年度日本遺産サミットに向けた協議会組織の運営体制の見直し(R7)	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
中芸地域主要施設訪問者数	525,906 人 (R4)	507,647 人			570,000 人

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
交流人口拡大に向けた仕組みづくり ■ 中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会 ・関係機関との連携による日本遺産関連ツアー等の開発、売込み ・台湾との交流、連携 ・外国語対応等のパンフレット作成やガイド人材の育成 ・イベント出展等による全国の日本遺産関係者との交流 ・SNS を活用した情報発信 ・既存イベントの磨き上げ ・構成文化財の保存・活用に向けた文化財保存活用地域計画の策定への参画 □ 県(地域本部等) ・研修会等の情報提供 ・産振アドバイザー等の活用提案 ・関係機関への橋渡し					
日本遺産サミット開催に向けた準備 ■ 中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会 ・R9 年度開催に向けた受入体制の強化 ・日本遺産サミット開催地域の視察 □ 県(地域本部等) ・各種支援制度の活用支援 ・サミット開催に向けた支援				日本遺産サミット開催に向けた取り組み	サミット開催
自走に向けた体制の強化 ■ 中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会 ・事業推進のための体制の再構築 ・地域商社もしくは DMO 設立の検討、準備 □ 県(地域本部等) ・他地域の事例や他の日本遺産の取り組みの情報提供 ・各種支援制度の活用支援				体制の再構築	地域商社もしくは DMO 設立に向けた取り組み
【用語】 ・日本遺産：地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定するもの。 ストーリーを語るうえで欠かせない魅力あふれる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的とする。					

安芸地域アクションプラン

分野		観光
AP 名 (実施地域)	No.15 室戸市の観光資源を生かした交流人口の拡大・地域振興 (室戸市)	
実施主体	◎室戸市、◎(一社)室戸市観光協会、室戸ジオパーク推進協議会、(株)日本ドルフィンセンター、NPO 法人日本ウミガメ協議会、土佐備長炭窯元炭玄、スカイアンドシー・ムロト、(株)East 水産、民間事業者	
AP への位置づけ	H21.4 月	
事業概要	世界ジオパークに認定された室戸ジオパークやむろと廃校水族館、海の駅とろむなどの観光資源の魅力度を高めるとともに、室戸市が有する自然や文化、施設等の「ウエルネス資源」を生かした持続可能な周遊・滞在型観光を推進し、交流人口の拡大を図る。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
観光資源の 魅力向上	・ジオパークネットワーク認定（日本：H20）（世界：H23） ・遊歩道、ドルフィンセンター等整備（H21～23）→産振補助金活用 ・接遇等各種ガイド研修の実施（H28～） ・むろと廃校水族館の屋外プールへの日除設置（R2） →観光拠点等整備事業費補助金の活用 ・EC サイト及びコロナ対策の強化（R2）→新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金の活用 ・室戸ドルフィンセンターのキッチントレラー、海上アスレチック等導入、MUROToBase55 の屋外風呂、トイレ、テントサウナの整備（R3） →観光施設等緊急整備事業費補助金の活用 ・海の駅とろむ飲食体験施設の再開（R4） ・室戸岬観光拠点施設活用検討委員会設置（旧飛蔵荘）（R5） ・室戸岬観光拠点施設の基本設計の実施（R6）	【成果】 ・世界ジオパークネットワーク再認定（R6.1） ・むろと廃校水族館の来場者数がオープンから５年で60 万人を突破（R5.9） 【課題】 ・施設間の連携による周遊型、滞在型観光への転換 ・体験メニューの開発・磨き上げ ・各施設の来館者数増 ・宿泊施設の不足 ・情報発信体制の構築 ・インバウンドの受入体制強化 ・シレストむろとの施設老朽化 ・旧ウトコホテルの活用 ・お土産品の不足
ウエルネスツーリズム・サステナブルツーリズムの推進	・室戸市ウエルネスシティ基本構想策定（R4） ・室戸市ウエルネスツーリズム推進計画策定（R5） ・シレストむろとが機械故障により臨時休業（R7）	・プログラムの開発、情報発信 ・室戸市 ・プログラムの造成・磨き上げに対する支援、ウエルネスプログラムに関する事業者向け説明会の開催、イベントの実施、ウエルネスツーリズム EXPO 等の催事への出展、計画の進捗管理、施設整備・改修（検討） □県（地域本部等） ・情報発信支援、各種支援策の情報提供、産振アドバイザー活用の提案
お土産品の開発・販売拡大による外貨獲得	・室戸市の特産品を生かしたお土産品の開発（R6） →産振アドバイザー制度の活用 →産振補助金の活用	「室戸のおもたせ開発・発掘プロジェクト」の推進 ■ 民間事業者 ・お土産品の試作・販売、販路拡大 ■ 室戸市 ・事業者募集、開発・販路拡大等に対する支援 □県（地域本部等） ・産振補助金の活用支援、各種支援策の情報提供、関係機関への橋渡し

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)室戸市主要施設訪問者数※	505 千人 (R4)	465 千人		R8	R9 900 千人
(2)ウエルネス関連の体験プログラム造成及び磨き上げ数	－	6 件			20 件 (R6～9 累計)

※ 1 月～12 月

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
施設整備・修繕、既存プログラム等のブラッシュアップ、対外的な PR 強化					体験プログラムの磨き上げ
■ 指定管理者、民間事業者 ・新規プログラム開発、体験プログラムの磨き上げ、イベント等の実施、情報発信					施設整備（検討）
■ 室戸市、(一社)室戸市観光協会 ・施設整備・修繕、SNS を活用した各施設の魅力・周遊ルートの情報発信、ホームページ等を活用した情報発信の一元化、観光商談会への出展、多言語化を通じたインバウンドの受入体制強化、遊休施設の活用検討					周遊体制の構築
□県（地域本部等） ・情報発信支援、各種支援策の情報提供、産振アドバイザー活用の提案					効果的な情報発信
					インバウンド対策
室戸市ウエルネスツーリズム推進計画の推進					
■ 民間事業者 ・プログラムの開発、情報発信					プログラムの造成、磨き上げ
■ 室戸市 ・プログラムの造成・磨き上げに対する支援、ウエルネスプログラムに関する事業者向け説明会の開催、イベントの実施、ウエルネスツーリズム EXPO 等の催事への出展、計画の進捗管理、施設整備・改修（検討）					プロモーション強化
□県（地域本部等） ・情報発信支援、各種支援策の情報提供、産振アドバイザー活用の提案					施設整備・改修（検討）
「室戸のおもたせ開発・発掘プロジェクト」の推進					
■ 民間事業者 ・お土産品の試作・販売、販路拡大					お土産開発・磨き上げ
■ 室戸市 ・事業者募集、開発・販路拡大等に対する支援					市内観光施設での取扱開始
□県（地域本部等） ・産振補助金の活用支援、各種支援策の情報提供、関係機関への橋渡し					

安芸地域アクションプラン

分野		観光
AP 名 (実施地域)	No.16 安芸市のユズ、ナス等の地域食材や観光資源を活用した交流・関係人口の拡大 (安芸市)	
実施主体	◎安芸市、◎(一社)安芸市観光協会、安芸漁協、伊尾木あなごう保存会、内原野陶芸館、JA 高知県 (安芸地区)、安芸市観光ボランティアガイドの会、廊中ふるさと館、メリーガーデン、はたやま夢楽、安芸「釜あげちりめん井」楽会、道の駅大山、安芸商工会議所、「はばたけ彌太郎」安芸市推進委員会、For the future、地元加工業者・加工グループ・飲食店	
AP への位置づけ	H21.4 月	
事業概要	既存の観光資源の磨き上げや自然・歴史文化等の地域資源を活用した新たな体験プログラムの造成、地域食材を活用したメニューや商品の開発等により、地域ブランド力及び観光客の満足度の向上を図り、交流・関係人口の拡大及び観光関連産業の活性化につなげる。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
生産量日本一の作物であるユズ、ナス等を活用した交流・関係人口の拡大に向けた取り組み	・安芸「釜あげちりめん井」楽会実行委員会によるイベントへの出店等 PR 活動 (H22～) ・なすスタンダラー開催 (R2、R4) ・安芸うまいもん開発アイデアコンテスト実施 (R4) ・安芸うまいもん開発アイデアコンテスト受賞商品の商品化支援 (R5) ・道の駅大山・ぎばさん市場の連携による商品開発 (R6) ・ふるさとワーキングホリデー開始 (R7)	【成果】 ・安芸うまいもん開発アイデアコンテスト受賞商品の商品化 R5：2 件 ・安芸駅ぎばさん市場リニューアルオープン (R5) ・道の駅大山リニューアルオープン (R5) ・道の駅大山加工品開発：7 件 (R6) ・どぶり高知旅観光ツアー商品化 R6：2 件、R7：2 件 (予定)
	・伊尾木洞観光案内所等の整備 (H30) →観光拠点等整備事業費補助金の活用 ・安芸観光情報センターリニューアル (R 元) →観光拠点等整備事業費補助金の活用 ・安芸駅ぎばさん市場の課題洗い出しと対策案の検討 (R3) →産振アドバイザー制度の活用 ・草花ガイド養成研修・モニターツアー実施 (R4) ・道の駅大山周辺観光振興計画策定 (R4) ・伊尾木洞駐車場拡大整備 (R4～5) ・道の駅大山改修工事 (R4～5) ・安芸市流域森づくり構想策定 (R6) ・海業の推進に取り組み地区に伊尾木漁港選定(R6) ・どぶり高知旅観光商品モニターツアー実施 (R6、R7)	【課題】 ・地域食材等を活用した商品の更なる開発 ・観光・交流事業の体制づくり ・各観光施設等の連携強化 ・観光客向け体験プログラムの強化 ・情報発信力の強化
観光資源の魅力向上への取り組み		

分野

観光

No.16 安芸市のユズ、ナス等の地域食材や観光資源を活用した交流・関係人口の拡大
(安芸市)

◎安芸市、◎(一社)安芸市観光協会、安芸漁協、伊尾木あなごう保存会、内原野陶芸館、JA 高知県 (安芸地区)、安芸市観光ボランティアガイドの会、廊中ふるさと館、メリーガーデン、はたやま夢楽、安芸「釜あげちりめん井」楽会、道の駅大山、安芸商工会議所、「はばたけ彌太郎」安芸市推進委員会、For the future、地元加工業者・加工グループ・飲食店

AP への位置づけ

H21.4 月

事業概要
既存の観光資源の磨き上げや自然・歴史文化等の地域資源を活用した新たな体験プログラムの造成、地域食材を活用したメニューや商品の開発等により、地域ブランド力及び観光客の満足度の向上を図り、交流・関係人口の拡大及び観光関連産業の活性化につなげる。

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)市内年間観光客数	174,399 人 (R4)	196,409 人		R8	R9 300,000 人
(2)市内年間宿泊者数	30,512 人 (R4)	26,676 人			30,000 人
(3)加工品開発数	1 件 (R4)	7 件	8 件		5 件 (R6～9 累計)

第 5 期計画における行程表

事業概要					R6	R7	R8	R9
新たなファンづくりを通じた産地の活性化 ■安芸市、(一社)安芸市観光協会 (ほか) ・援農隊実施、観光・交流事業の企画 ・ふるさとワーキングホリデーの検討 ・関係人口の拡大に向けた PR、ふるさと納税の強化 □県(地域本部等) ・各種支援制度の情報提供、PR 支援 地域食材等を活用した誘客の推進 ■安芸市、(一社)安芸市観光協会 (ほか) ・地域食材を活用したメニューや商品の開発・磨き上げ・PR ・道の駅大山・観光情報センター・ぎばさん市場の連携促進、商品開発・販売促進 □県(地域本部等) ・各種支援制度や商談会等の情報提供						新企画 メニュー検討		
体験プログラムの磨き上げと新たな造成 ■安芸市、(一社)安芸市観光協会 (ほか) ・自然や歴史を活用した既存の体感体験プログラムの磨き上げ、新たなプログラムの造成 ・道の駅大山周辺の観光振興計画の推進 (サイクルツーリズム等) ・NHK 連続テレビ小説「あんぱん」放送と連携した観光施策の推進 □県(地域本部等) ・各種支援制度や先進事例等の情報提供、PR 支援 集客に繋げるための各種取り組みの検討・実施 ■安芸市、(一社)安芸市観光協会 (ほか) ・滞在時間延長に向けた市内周遊促進の仕組みづくり ・定期的な魅力発信 (イベントの企画・開催) □県(地域本部等) ・各種支援制度の情報提供、SNS 等情報発信						企画検討		各種プラン実施

安芸地域アクションプラン

分野		観光
AP 名 (実施地域)	No.17 東洋町における体験型・滞在型観光の推進 (東洋町、室戸市)	
実施主体	◎(一社)東洋町観光振興協会、◎東洋町、地元マリンスポーツ等関係事業者、宿泊事業者、阿佐海岸鉄道(株)、東洋町商工会、(一社)高知県東部観光協議会、室戸市、地域団体	
AP への位置づけ	H25.4月	
事業概要	サーフィンやダイビングを中心としたマリンスポーツや DMV (デュアル・モード・ビークル)、野根川といった地域資源を生かした体験型観光メニューの充実、周遊プランの造成など、観光客の受入体制の強化に取り組みることにより、滞在時間の延長及び誘客促進を図る。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
受入体制の強化	・14 体験プログラムの開発 (H27～28) ・農家漁家民泊の推進 (H28～) ・観光振興協会事務局兼観光案内所開所 (H31) ・(一社)東洋町観光振興協会の設立 (R 元) ・サーフィン大会の誘致 ・ビーチホッピング事業 (R 元～) →観光拠点等整備事業費補助金の活用 ・清流の里野根川オートキャンプ場オープン (R4) →観光拠点等整備事業費補助金の活用 ・(一社)東洋町観光振興協会へ事務局長設置 (R4)	【成果】 ・ビーチホッピング体験者数 R 元：2,945 人 →R6：5,450 人 ・夏場のアクティビティの充実 ・DMV をきっかけとした観光客の流入 ・清流の里野根川オートキャンプ場の整備による新たな客層の獲得
DMV を活用した観光振興	・阿佐海岸鉄道(株)や高知県及び徳島県の観光・商工団体等からなる「あさチエン推進会議」発足 (R 元) ・DMV を活用した観光コンテンツ開発、プロモーションの実施計画策定 (R 元) →産振アドバイザー制度の活用 ・シェアサイクル PIPPA 整備 ・DMV 本格営業運行開始 (R3) ・東洋町・海陽町をフィールドとした阿佐海岸鉄道主催のウォーキングイベント「トレジャーハンティング」の実施 (R4) ・DMV 弁当の開発 (R6)	【課題】 ・雨天時や夏以外の時期の対応 ・体験プログラムの造成 ・人手不足 ・関係団体、近隣自治体との連携 ・DMV 乗客の利便性の向上 ・新たな観光資源の掘り起こし
野根川を活用した地域振興	・野根川の自然をテーマとした地域活性化施策を実施 (H28～R3) →地方創生推進交付金を活用 ・南四国アイランド活性化協議会の設立 (R2) ・清流の里野根川オートキャンプ場オープン (R4) →観光拠点等整備事業費補助金の活用 ・野根川オートキャンプ場でのテントサウナ整備 (R6) ・野根川あゆまつりの開催 (R6～) ・野根川さくらまつりの開催 (R6～) ・味噌づくりや耕作放棄地を活用した地域活動の実施 (R6～) →小さな集落活性化事業の活用	

分野		観光
AP 名 (実施地域)	No.17 東洋町における体験型・滞在型観光の推進 (東洋町、室戸市)	
実施主体	◎(一社)東洋町観光振興協会、◎東洋町、地元マリンスポーツ等関係事業者、宿泊事業者、阿佐海岸鉄道(株)、東洋町商工会、(一社)高知県東部観光協議会、室戸市、地域団体	
AP への位置づけ	H25.4月	
事業概要	サーフィンやダイビングを中心としたマリンスポーツや DMV (デュアル・モード・ビークル)、野根川といった地域資源を生かした体験型観光メニューの充実、周遊プランの造成など、観光客の受入体制の強化に取り組みることにより、滞在時間の延長及び誘客促進を図る。	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)体験者数	5,407 人 (R4)	5,767 人			5,800 人
(2)東洋町主要施設訪問者数※	270,338 人 (R4)	277,784 人			320,000 人

※1月～12月

第5期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
体験プログラムの磨き上げ・造成、周遊の仕組みづくり ■地元マリンスポーツ等関係事業者 ・体験プログラムの磨き上げ・造成 ■(一社)東洋町観光振興協会、(一社)高知県東部観光協議会、四国南東部広域観光連携協議会 ・ビーチホッピングの運営強化、体験プログラムの磨き上げや造成の支援・広報、周遊プランの検討・造成・販売支援、観光情報の提供 ■東洋町 ・マスコミ・SNS を通じた PR、関西圏に向けた PR ・(一社)東洋町観光振興協会の体制強化 ・インバウンドに対応した受入体制の整備 □県(地域本部等) ・産振アドバイザーや観光創生塾等の活用提案、各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し DMV 沿線地域との連携 ■(一社)東洋町観光振興協会、東洋町、東洋町商工会、(一社)高知県東部観光協議会、阿佐海岸鉄道(株)、室戸市、南四国アイランド活性化協議会 ・沿線地域の周遊の仕組みの検討 ・SNS やマスコミを通じた情報発信 ・観光客の満足度向上に向けた取り組みの推進 □県(地域本部等) ・イベント等の企画・実施に積極的に関わり、状況に応じた支援や各種支援制度に関する情報提供					
				関係団体との連携	
			沿線周辺の情報発信	周遊プランの検討	
				プロモーションの推進	
			観光資源の掘り起こし		整備

安芸地域アクションプラン

分野		観光
AP 名 (実施地域)	No.18 安田川アユおどる清流キャンプ場における交流人口の拡大による地域の活性化 (安田町)	
実施主体	◎ 指定管理者 (有)ダディースポニオン)、◎ 安田町	
AP への位置づけ	H31.4 月	
事業概要	安田町の自然・体験型観光の拠点施設であるキャンプ場において、安田川をはじめとする地域資源を活用したアクティビティの強化や季節毎に特色あるイベントの開催、情報発信などを行い、ファンの拡大を図るほか、キャンプ場利用者の周辺施設への誘客や地域食材の利活用を推進し、交流人口の拡大と地域活性化につなげる。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
キャンプ場の磨き上げ	・キャンプ場リニューアルに向けた基本計画の策定(H30)及び実施設計の作成(R元) →観光拠点等整備事業費補助金を活用 ・改修工事の実施(R2) →地域観光振興交付金等を活用 ・安田川アユおどる清流キャンプ場設置及び管理に関する条例の制定(R2) ・安田川アユおどる清流キャンプ場リニューアルオープン(R3) ・専用HPの立ち上げ・パンフレット刷新(R3) ・Web予約開始(R3) ・新規プラン及び焼肉セット提供開始(R6) ・電子マネー決済対応開始(R6) ・キャンセル料金徴収のための条例改正(R7)	【成果】 ・キャンプ場リニューアルオープン(R3) ・雇用創出：1名(安田町内より(R3)) ・「ゆずFeS」を活用した体験メニュー(オージリーブBBQ講座)利用者数(R3)：10組22名 ・「土佐あかうし焼肉セット」販売数(R6～)：約20個 ・水難事故防止イベント来場者(R6)：約40名 ・安田川での釣りイベント参加者(R7)：約150名
ファン拡大に向けた仕組みづくり	・土佐の観光創生塾の受講を通じたJAや安田川漁協との連携による体験メニューの検討(R元) ・日本遺産関連イベント「ゆずFeS」の体験プログラムとしてキャンプ場で体験メニューを実施(R元、R3) ・中芸ハーブフェスティバル2021で体験メニューを実施(R3) ・味工房じねんと土佐の元氣市との連携に向けた協議(R3) ・コールマンパートナーフィールドイベント(R3～) ・Xmasイベントの開催(R3～) ・スカイアンドシー・ムロトとの商談(R4) ・完全天日塩(田野屋紫蘭)との商談(R5) ・安芸警察署との連携による地域の子ども向け水難事故防止イベントの企画・実施(R6) ・町外事業者との連携によるワークショップの開催(R6～) ・安田川での釣りイベントの開催(R7)	【課題】 ・利用者が減少傾向 ・周辺施設等との連携による相互誘客の仕組みづくり及び施設の磨き上げ

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
キャンプ場利用者数	7,607人 (R4)	4,941人			7,000人

第5期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
顧客サービスの向上		顧客サービスの向上			
■ 指定管理者 (有)ダディースポニオン) ・新たな人材の雇用・育成 ・顧客ニーズにあった管理・運営方法の検討		顧客サービスの向上			
■ 安田町 ・管理・運営に関する指定管理者との調整 □ 県(地域本部等) ・補助金等の各種支援制度の情報提供		安定した運営に向けた管理・運営方法の検討			
イベント等の開催による利用者数向上		イベント等の内容検討			
■ 指定管理者 (有)ダディースポニオン) ・イベント内容や体験メニュー内容の検討、実施 ・イベント等の継続実施に向けた仕組みづくり ・SNSを活用した継続的な情報発信		イベント等の実施及び情報発信			
■ 安田町 ・情報発信 □ 県(地域本部等) ・他地域の取り組みや各種支援制度の情報提供 ・関係機関への橋渡し		イベント等の実施及び情報発信			
周辺施設との連携の仕組みづくり		連携内容等の検討			
■ 指定管理者 (有)ダディースポニオン)、安田町 ・連携内容や方法についての検討、準備 ・連携の継続及び発展の仕組みづくり □ 県(地域本部等) ・連携可能な事業者について情報収集 ・他地域の取り組みや各種支援制度の情報提供		継続及び発展の仕組みづくり			

安芸地域アクションプラン		
分野		観光
AP 名 (実施地域)	No.19 北川村観光 3 施設を核とした交流人口の拡大 (北川村)	
実施主体	◎(株)きたがわジャルダン、◎北川村、(一社)北川村文化観光公社、NPO 法人中岡慎太郎先生顕彰会、北川村北部地区「いこの里」の会	
AP への位置づけ	H21.4 月	
事業概要	北川村「モネの庭」マルモッタン、北川村温泉、中岡慎太郎関連施設及び北部地区いこの里に関する情報発信の強化や、施設間の連携、体験メニューの実施などに取り組むことにより、集客力を高めて、交流人口の拡大を図る。	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
3 施設合計入園（館）者数	110,164 人（R4）	111,589 人	117,415 人		R9 111,000 人

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
情報発信の強化	・北川村観光協会のホームページ作成（H28） →歴史観光資源等強化事業費補助金の活用 ・北川村ゆず新聞の発行（H30～） ・北川村ゆずいっぱい手帖の発行（R4） ・商品撮影セミナーへの参加（R4） ・「ゆず香る里北川村」ホームページ作成（R5）	【成果】 ・北川村ゆず新聞 累計号数：20 号（R7.9） ・3 施設合計入園（館）者数 H30:94,350 人 →R5:129,878 人 →R6:111,589 人 ・慎太郎バスポート配布数 R3:752 冊→R4:1,478 冊→R5:1,500 冊 ・慎太郎バスポート周遊うりー応募件数 R3:379 件→R4:29 件→R5:161 件 ・北川村ゆずガルメラリー配布数 R7:1,000 枚
運営体制の強化と施設の磨き上げ	【モネの庭】 ・フローラルホール、小庭園等の整備（H22,23）→産振補助金 ・カフェモネの家改修（H28） ・ボリデイゲラの庭オープン（R2）→観光拠点等整備事業費補助金 ・文化観光推進事業（文化庁）の認定（R7～R11） 【中岡慎太郎館】 ・エアタイトケースの整備や館内外の設備改修等（H28） →歴史観光資源等強化事業費補助金の活用 ・感染症対策のためのトイレ改修（R2）→国交付金の活用 ・（一社）北川村文化観光公社へ指定管理移行（R7） 【北川村温泉ゆずの宿】 ・リニューアルオープン（H30）→観光拠点等整備事業費補助金等 ・ふるさとワーキングホリデーの実施（R7）	【課題】 ・情報発信のスキルアップ ・各施設の従業員不足 ・施設の老朽化 ・3 施設及び周辺飲食店等との連携強化 ・3 施設間を結ぶ交通アクセス ・体験メニューの担い手の確保
周遊の仕組みづくりと体験観光の強化	・1DAY バスポートきたがわさんぽの販売（H27） ・北川村観光施設周遊スタンプラリーきたがわ ALUKU の実施（H28～R 元） ・きたがわ村慎太郎バスポート周遊ラリーの実施（R2～5） ・観光創生塾受講による観光商品の造成（R2） ・きたがわむらマップの更新（R4） ・（一社）北川村文化観光公社の設立（R7） ・北川村ゆずガルメラリーの実施（R7）	

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
観光情報の発信と情報発信力の強化		SNS や観光イベント出店等による観光情報の発信			
■(株)きたがわジャルダン、北川村、中岡慎太郎先生顕彰会、(一社)北川村文化観光公社、北川村北部地区「いこの里」の会		情報発信力のスキルアップ			
・SNS 等を用いた情報発信やイベント等への出展による PR		人材確保のための取り組み			
・研修会への参加やアドバイザーの活用		修繕計画策定・施設修繕			
□県(地域本部等)		文化観光推進事業の推進			
・産振アドバイザー制度の活用提案、研修会への参加呼びかけ					
運営体制の強化					
■(株)きたがわジャルダン、北川村		記念事業の計画・実施			
・人材確保に向けてふるさとワーキングホリデー等の活用を検討		各施設のイベントや企画展の連携			
施設の磨き上げ		体験メニュー検討・造成			
■(株)きたがわジャルダン、北川村					
・モネの庭修繕計画の策定・実施					
・モネの庭文化観光推進事業（文化観光拠点計画）の推進					
□県(地域本部等)					
・産振補助金、産振アドバイザー制度の活用提案					
記念事業の計画・実施					
■(株)きたがわジャルダン、中岡慎太郎先生顕彰会					
・記念事業（モネの庭 25 周年、中岡慎太郎館 30 周年）の計画・実施					
□県(地域本部等)					
・各事業の計画・実施支援					
村内周遊の仕組みづくりと体験メニューの造成					
■(株)きたがわジャルダン、中岡慎太郎先生顕彰会、(一社)北川村文化観光公社、北川村北部地区「いこの里」の会					
・施設間の連携、体験メニューの検討・造成					
□県(地域本部等)					
・産振アドバイザー制度の活用提案、体験メニュー造成における支援					

安芸地域アクションプラン			分野	観光
AP 名 (実施地域)	No.20 自然や歴史・文化を活用した山と暮らす馬路村の観光振興 (馬路村)			
実施主体	◎馬路村			
AP への位置づけ	R6.4 月			
事業概要	千本山や安田川等の自然資源、魚梁瀬森林鉄道や山村の暮らし等の歴史・文化を活用した観光コンテンツを開発し、既存の観光資源と連携した村内への誘客と観光消費額の拡大を図る。			

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
受入体制の充実・強化	- 馬路村ふるさとセンターまかいちよつて家の開設（H8） 「特別村民制度」の開始（H15） 「村の案内人クラブ」の発足（H22） - 村内に翻訳機を設置（H27） - 魚梁瀬森林公園オートキャンプ場等の整備（H30） →観光拠点等整備事業費補助金の活用 - 馬路温泉の建て替えの検討（R4） →産振アドバイザー制度の活用 - 民間事業者と連携した観光に係る包括協定の締結（R5） - 観光基本構想の策定（R6）	【成果】 - 特別村民制度の登録者数 12,630 人（R7.11 月時点） - 主要な観光施設の入込数 - R2：24,123 人 - R3：26,556 人 - R4：33,379 人 - R5：30,031 人 - R6：27,391 人 【課題】 - 既存施設の老朽化 - 観光客入込数のコロナ禍からの回復 - 新たな観光コンテンツの開発 - 既存の体験メニューの見直し・磨き上げ - インバウンドへの対応 - 観光施設のあり方の検討
観光コンテンツの開発	- 馬路村の観光資源の活用方法について検討（H29） →産振アドバイザー制度の活用 - インバウンド向けモニターツアーの受入れ（R4） - スポーツファッシングの実施に向けたあめごの特別採捕調査（R6） - アマゴの冬期キャッチ＆リリース開始（R7）	
情報発信の強化	- 観光 PR パンフレットの作成 - 英語版観光パンフレットの作成（H24～） - Instagram を用いた馬路村の情報発信（R5～） - 合同会社 DMM との包括連携協定式（東京）と併せて馬路村 PR イベント「ゆず香る村めしマルシェ」を実施（R6） - YouTube、芸能人による情報発信（R7）	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)観光客入込数	33,379 人 (R4)	27,391 人	32,672 人		37,902 人
(2)主要販売拠点売上高	42,438 千円 (R4)	47,104 千円	51,916 千円		53,074 千円

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
受入体制の充実・強化 ■馬路村 ・フンストップ型総合案内窓口としてのふるさとセンターの体制の検討 ・民間事業者と連携した観光施設等の整備 ・既存施設の改修・修繕 ・村内の観光事業の実施体制の見直し ・ふるさとワーキングホリデーや特定地域づくり事業協同組合の活用による人材確保 □県(地域本部等) ・産振アドバイザーの活用提案、各種支援に関する情報提供		総合案内窓口の体制強化 基本構想の策定	実施に向けての検討 既存施設の改修・修繕		施設整備の実施
観光コンテンツの開発・商品化 ■馬路村 ・馬路村ならではの観光コンテンツの開発 ・スポーツファッシングの充実に向けた環境整備 ・インバウンド向けの観光コンテンツの開発 □県(地域本部等) ・産振アドバイザーの活用提案、各種支援に関する情報提供 ・あめごの漁期変更に向けた支援				観光コンテンツの開発・商品化	
					スポーツファッシングの充実に向けた環境整備
情報発信による新規顧客・リピーターの獲得 ■馬路村 ・SNS を活用したイベント周知 ・多言語に対応した情報発信 □県(地域本部等) ・各種支援に関する情報提供				効果的な情報発信	